(トップページ:http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/)
(GDP(IMF WEO):http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/GDP.html)
(MENA・イスラム圏:http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MenaOicCountries.html)
マイライブラリー:0342

(注)本稿は 2015 年 4 月 29 日から 5 月 19 日まで 5 回に分けて「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2015.5.21
前田 高行

世界主要国とMENAの GDP 成長率・一人当たり GDP(IMF 2015 年 4 月版)

目次 頁

1. 2015/16 年の経済成長率
(1)世界および主要地域・国の経済成長率 2
(2)MENA 諸国の経済成長率 2
2. 前回(2014 年 10 月)と今回(2015 年 4 月)の比較
(1)世界および主要地域・国 2
(2)MENA 諸国 3
3. 2015年の各国の名目 GDP(予測) 3
4. 2015年の一人当たり GDP 4
5. 世界および主要地域・国の GDP 成長率の推移(2012~2016年)
(1)世界および主要な地域・国 5
(2)MENA諸国 6

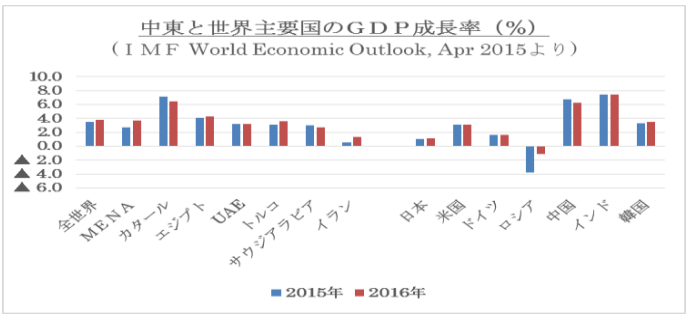
IMF(国際通貨基金)では毎年 4 月および 10 月に世界各国の経済見通し「World Economic Outlook Database (WEO)」を発表しており、今年 4 月版(以下 WEO2015Apr)がインターネット上に公開された。
＊URL: http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2015/01/weodata/index.aspx

この中には GDP 成長率、ドル建て・各国通貨建ての GDP 金額、一人当たり GDP、貿易額、財政収支など数多くのデータがあり、特に当年度或いは次年度の経済成長率は官庁、メディア等々で広く引用されている。

ここでは 2012 年から 2016 年までの GDP 総額及び一人当たり GDP(いずれも current price, ドル建て)を取り上げ、また成長率については前回の 2014 年 10 月版(以下 WEO2014Oct)と比較して世界主要国およびMENA諸国の経済状況の変化を検証する。

(来年は上向く世界経済！)

1. 2015/16 年の経済成長率（末尾表 1-B-2-08 参照）



(1)世界および主要地域・国の経済成長率

IMF は今年(2015 年)の世界の経済成長率を 3.5%と見ており、来年(2016 年)は今年よりも 0.3%高い 3.8%と予測している。地域別に見てもEUは1.8%から 1.9%に高くなり、ASEAN5 か国も 5.2%から 5.3%へと若干上向く見込みである。国別に見ても今年より来年の成長率が高い国が多い。たとえば日本は 1.0%(2015 年)から 1.2%(2016 年)に伸びる見通しであり、ドイツは 1.6%→1.7%に、また韓国も 3.3%→3.5%に上向くと予測されている。一方インドは 7.5%の横ばい状態とみられ、米国は今年よりも来年はほんのわずか下降気味である。またこれまで 7%以上の高い成長率を続けてきた中国も今年の 6.8%から来年は 6.3%に低下する見込みである。ロシアは今年、来年ともマイナス成長であるが(15 年:-3.8%、16 年:-1.1%)、来年は回復の兆しが見られる。

(2)MENA 諸国の経済成長率

IMF によれば今年の MENA(中東北アフリカ地域)の成長率は 2.7%である。来年は今年を 1.5%上回る 3.7%と見込んでおり、全世界の平均を上回る高い成長率を達成する見通しである。国別にみるとリビアが 4.6%('15 年)から 17.7%('16 年)と大幅な上昇を予測しており、イラクおよびイエメンもそれぞれ 1.3%→7.6%、マイナス 2.2%→プラス 3.6%と見込まれている。これら 3 カ国は現在社会不安が収まらず経済が深刻な状態にある。IMF はこのような状況が改善されると見込んでいるようであるが、予断は許さない。

MENA の大国であるトルコ、イランおよびエジプトの今年・来年の成長率はトルコが 3.1%→3.6%、イランは 0.6%→1.3%、エジプトは 4.0%→4.3%であり 3 カ国とも来年は経済が好転するとされている。一方サウジアラビアは今年の 3.0%から来年は 2.7%に減速すると見込まれ、GCC6 か国の平均でも今年の 3.7%が来年は 3.3%に落ち込む見通しである。歳入のほとんどを石油・天然ガスに依存している GCC 諸国は数年前まで石油価格の高騰によりブームの状態を呈したが、昨年以降の価格急落によりその反動が来年まで及ぶと予測されている。

(6 か月前より下方修正された今年と来年の成長率！)

2. 前回(2014 年 10 月)と今回(2015 年 4 月)の比較(末尾表 1-B-2-08 参照)

(1)世界および主要地域・国

上述のとおり今回(WEO2015Apr)の成長率の見通しは今年(2015 年)が 3.5%であり、来年(2016 年)は 3.8%である。これに対して前回(WEO2014Oct)の見通しでは 2015 年が 3.8%、2016 年は 4.0%であり今回成長率はいずれも下方修正されている。つまり 2015 年から 2016 年にかけて成長が高まるとの見通しに変わりはないが、加速の度合いが鈍っている。IMFは世界経済の回復が遅れると予測しているようである。

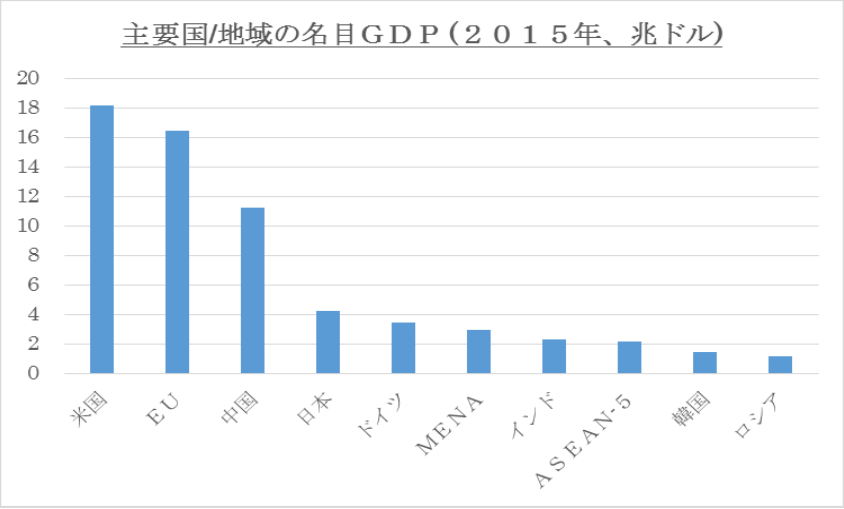
国別にみると明暗が分かれ、日本の場合今年、来年ともに成長率は上方修正されている(今年:0.8%→1.0%、来年:0.8%→1.2%)。同様にインドも今年は6.4%→7.5%に、来年も6.5%→7.5%と1 ポイント以上高くなっている。これに対して米国は前回見通し通りで変化はないが、中国および韓国の場合は今年、来年ともに 0.5 ポイント前後下方修正されている。特にロシアは前回予測では今年、来年ともにわずかではあるがプラス成長とされていたものが、今回は今年マイナス 3.8%、来年もマイナス 1.1%と 2 年連続のマイナス成長である。

(2)MENA 諸国

MENA 地域の成長率は 2015 年が前回の 3.8%から 2.7%に、また 2016 年も 4.5%から 3.7%へと大幅に下方修正されている。MENA 諸国の中で成長率が前回に比べて上方修正されたのはイスラエルとエジプトの 2 か国だけであり、その他の国々はすべて横ばいか下方修正されている。産油国についてもたとえばサウジアラビアは今年 1.5 ポイント、来年も 1.7 ポイント下がっており、UAE は両年ともに 1.3 ポイント下方修正されている。特に今年の修正幅が大きいのはリビアおよびイエメンであり、リビアは前回の 15.0%から今回 4.6%に、イエメンはおなじく 4.6%からマイナス 2.2%に見直しされている。両国とも昨年後半から内戦状態であることが下方修正の理由であろう。なお「イスラム国」を含めた反政府組織が跋扈し無政府状態に陥っているシリアは前回も今回も IMF はデータを発表していない。

(米国の GDP 総額は全世界の4分の1!)

3. 2014年の各国の名目 GDP(予測) (末尾表 1-B-2-09 参照)



IMF では今年の世界の名目 GDP(at Current Price)総額を75兆ドルと推定している。地域別では EU が16兆ドル、全体の22%を占めている。また ASEAN5か国は2.1兆ドル(全体の2.8%)、MENA 地域は2.9兆ドル(同3.9%)である。

国別では米国が世界トップの18兆ドルで全世界に占める割合は24%、同国一国だけで世界の GDP の4分の1を生み出している。米国に次ぐ GDP 大国は中国の11兆ドルであり世界全体の15%を占めている。この2か国が世界でも突出している。第3位は日本(4.2兆ドル)であるが、米国の4分の1あるいは中国の3分の1にとどまっている。EU の経済大国ドイツの GDP は3.4兆ドルであり、EU 全体の5分の1を占めている。その他の主な国を見るとインドは2.3兆ドル、韓国1.4兆ドル、ロシア1.2兆ドルなどである。

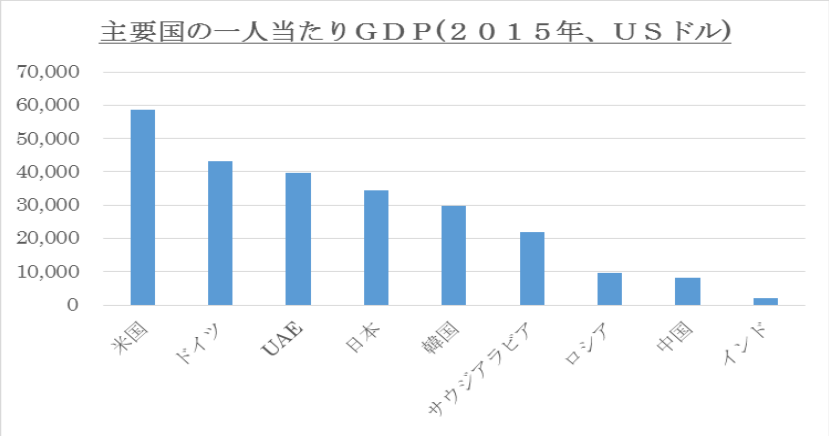
MENA17カ国(エジプト、シリアを除く)の中で2015年の名目 GDP が最も大きい国はトルコの7，530億ドルであり、サウジアラビアが6，490億ドルで続いている。この2カ国が MENA の合計 GDP に占める比率はそれぞれ21%と18%であり、両国は MENA 諸国の中では突出している。第3位はイランの3，930億ドル、第4位 UAE(3，640億ドル)はいずれもトルコ或いはサウジアラビアの半分にとどまっている。

5位以下11位まではイスラエル(3，070億ドル)、カタール(1，970億ドル)、アルジェリア(1，870億ドル)、イラク(1，740億ドル)、クウェイト(1，340億ドル)、モロッコ(1，020億ドル)であり、以上11カ国が年間 GDP1千億ドルを超える国々である。UAE、カタール、クウェイトなど人口の少ない産油国がイラン、イラクなど地域の大国とそん色のない GDP を誇っている。

GDP が1千億ドル未満の国は、オマーン(630億ドル)、レバノン(550億ドル)、チュニジア(450億ドル)、イエメン(430億ドル)、ヨルダン(380億ドル)、リビア(340億ドル)、バハレーン(310億ドル)である。MENA で GDP が最も小さいヨルダン、リビア、バハレーンはサウジアラビア或いはトルコの20分の 1 以下である。

(カタールの一人当たり GDP は日本の2倍以上！)

4. 2015年の一人当たり GDP (末尾表 1-B-2-10 参照)



日本の一人当たり GDP は34，414ドル、米国は58，625ドル、ドイツは43，074ドルである。米国は日本の1．7倍、ドイツの1．4倍である。また韓国は29，683ドルであり、米国の2分の1、日本の9割弱である。BRICsと呼ばれ有力新興国であるロシア、中国、インドはそれぞれ9，572ドル、8，154ドル、1，942ドルであり、ロシア、中国は未だ1万ドルに達していない。インドは今年、来年と7%の高い成長率が見込まれるが、一人当たり GDP はまだまだ低く、日本の約20分の1、米国の30分の1に過ぎない。

MENA 諸国の一人当たり GDP は国家間で大きな格差がある。LNG の輸出で潤うカタールの一人当たり GDP は79，501ドル、米国をしのぎ日本の2倍以上で世界のトップクラスである。MENA で一人当たり GDP が1万ドルを超える国はカタールのほか UAE(39，787ドル)、イスラエル(36，388ドル)、クウェイト(35，235ドル)、バハレーン(25，633ドル)、サウジアラビア(22，043ドル)、オマーン(15，796ドル)、レバノン(12，422ドル)およびトルコ(10，067ドル)の9か国である。

上位7カ国のうちイスラエルを除く6か国は GCC 諸国であり、石油あるいは天然ガスの恩恵を受けていることがわかる。特に6か国の中で人口がバハレーンに次いで少ないカタールは他を大きく引き離している。GCC6か国の平均一人当たり GDP は36，000ドルであり日本を上回っている。

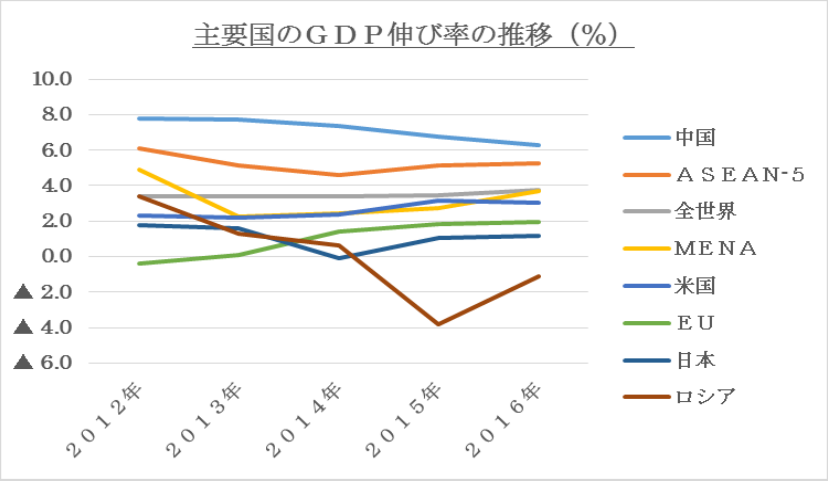
しかし同じ産油国でありながらリビア、イラク、イラン、アルジェリアなどは一人当たり GDP が5千ドル前後であり、GCC と大きな格差がある。MENA で最も貧しいのはイエメンであり同国の一人当たり GDP(1，592ドル)は実にカタールの50分の1にとどまっている。

なお一人当たりGDPは各国のGDP総額を人口数で割ったものであるが、IMF統計における計算の母数となる人口、特にGCC諸国のそれについては注意すべき点がある。例えばカタールの人口は約200万人とされており、同国の一人当たりGDP79，501ドルは同国のGDP(1，970億ドル。前項参照)をその人数で割ったものである。しかし同国人口のうち 80%～90%はインドなど貧しい国からの出稼ぎ労働者が占めており、カタール国籍を有する自国民は40万人足らずと言われる。通常、統計上の人口は国籍を有する者のみが対象で一時的な出稼ぎ労働者は含まないが、カタールの一人当たりGDPには出稼ぎ労働者も含まれており実態を正確には表していないと言える。このことは同じように外国人比率が高いUAE或いはクウェイトについても言えることであり、3分の1が外国人であるサウジアラビアの場合も程度の差はあれ同様である。

このような要素を加味してGDPを算出した統計は見当たらないが、実態的に言えばカタール、UAE、クウェイトの一人当たりGDPはIMF公表数値の数倍に達すると考えられ、これら湾岸産油国の一人当たりGDPが世界最高レベルであることは間違いないであろう。

(少しずつ伸びる世界、低下し続ける中国！)

5. 世界および主要地域・国の GDP 成長率の推移(2012～2016年)（末尾表 1-B-2-11 参照）



(1)世界および主要な地域・国

2012年から2016年までの5年間の経済成長率の推移を見ると世界全体では2012年から昨年までは年率3．4%の成長を続けており、今年は3．5%、来年は3．8%と成長率が上向くとみられている。

地域別で見ると EU は2012年は0．4%のマイナス成長であったが、2013年には0．1%とわずかではあるがプラス成長に転じ、2014年以降は1．4%(14年)→1．8%(15年)→1．9%(16年)と成長率に弾みがつくと予測されている。2012年に6．1%の成長率を達成したASEAN-5か国はその後も5%前後の安定した成長を続ける見通しである。産油国を多く抱えたMENA地域は2

012年の成長率は4．9%であったが、翌年には2．3%に低下、その後今年まで2%台の成長にとどまっている。これは同地域で2011年の「アラブの春」の騒乱終結後も社会の不安定が収まらず経済が低迷しているためと考えられる。IMFは来年の成長率を3．7%と予測しており政治の混乱から抜け出せると期待しているようである。

主要な国では日本の成長率は2012年の1．8%から2014年には一0．1%とマイナス成長に落ち込んでいるが、今年、来年は1～1．2%のプラス成長が見込まれる。米国の経済は先進国の中でも特に好調であり5年間を通じて前半の3年間は2%台のプラス成長であり、後半の今年、来年の2年間はさらに加速して3．1%の成長率になるとの見通しである。

中国は2012~14年の成長率は7%台であったが、今年および来年は6%台に落ち込むと予想される。インドは中国とは逆に過去3カ年は5．1%→6．9%→7．2%と成長率を高めて中国に並び、今年および来年は中国を上回る7．5%の成長が見込まれる。これらの国に対してロシアは油価の下落に続いて西欧先進国の経済制裁の影響が今後ますます厳しくなる見通しであり、GDP成長率は過去3カ年で大幅に落ち込み、さらに今年はマイナス3．8%、来年もマイナス1．1%のマイナス成長が続くとIMFは予測している。

（2）MENA諸国

MENAで2015年の名目GDPが最大と目されるトルコは2012年の経済成長率が2．1%であったが、その後も4．1%(13年)→2．9%(14年)→3．1%(15年見込み)→3．6%（16年予想）と堅実な成長を続けている。世界最大の産油国でトルコに次ぐGDP大国であるサウジアラビアの5年間の成長率（実績・予想）は5．4%（12年）→2．7%(13年)→3．6%(14年)→3．0%(15年見込み)→2．7%（16年予想）であり、油価が急騰した2010年代前半のような大きな伸びは期待できないが、それでも安定した経済成長が見込まれている。

サウジアラビアを含むGCC6か国の平均成長率も5．3%（12年）→4．3%(13年)→3．7%(14年)→3．7%(15年見込み)→3．3%（16年予想）と3%以上の成長率が見込まれている。同じ産油国でもイランは2012年にマイナス6．6%の大幅なマイナス成長であった。2014年に3．0%のプラス成長を達成しているが、今年および来年は1%前後の低成長が続く見通しである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田　高行　　〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maedat@r6.dion.ne.jp

2015年 GDP at Current Price(2015年4月値)

順位		国名	10億ドル	%
1	Turkey	トルコ	753	21.1%
2	Saudi Arabia	サウジアラビア	649	18.2%
3	Iran	イラン	393	11.0%
4	UAE	UAE	364	10.2%
5	Israel	イスラエル	307	8.6%
6	Qatar	カタール	197	5.5%
7	Algeria	アルジェリア	187	5.2%
8	Iraq	イラク	174	4.9%
9	Kuwait	クウェイト	134	3.8%
10	Morocco	モロッコ	102	2.9%
11	Oman	オマーン	63	1.8%
12	Lebanon	レバノン	55	1.5%
13	Tunisia	チュニジア	45	1.3%
14	Yemen	イエメン	43	1.2%
15	Jordan	ヨルダン	38	1.1%
16	Libya	リビア	34	1.0%
17	Bahrain	バーレーン	31	0.9%
	Egypt	エジプト	na	
	Syria	シリア	na	
		合計	3,570	100.0%
		(GCC6カ国合計)	1,438	40.3%
		全世界	74,551	100.0%
		EU	16,449	22.1%
		ASEAN-5	2,122	2.8%
		MENA	2,909	3.9%
		日本	4,210	5.6%
		米国	18,125	24.3%
		ドイツ	3,413	4.6%
		ロシア	1,176	1.6%
		中国	11,212	15.0%
		インド	2,308	3.1%
		韓国	1,435	1.9%

1-B-2-10　　（前田　作成）

2015年一人当たりGDP(2015年4月値)

順位		国名	USドル
1	Qatar	カタール	79,501
2	UAE	UAE	39,787
3	Israel	イスラエル	36,388
4	Kuwait	クウェイト	35,235
5	Bahrain	バーレーン	25,633
6	Saudi Arabia	サウジアラビア	22,043
7	Oman	オマーン	15,796
8	Lebanon	レバノン	12,422
9	Turkey	トルコ	10,067
10	Libya	リビア	6,705
11	Jordan	ヨルダン	5,866
12	Iraq	イラク	5,240
13	Iran	イラン	5,057
14	Algeria	アルジェリア	4,742
15	Tunisia	チュニジア	4,106
16	Morocco	モロッコ	3,227
17	Yemen	イエメン	1,592
	Egypt	エジプト	na
	Syria	シリア	na
		GCC6カ国平均	36,333
		日本	34,414
		米国	58,625
		ドイツ	43,074
		ロシア	9,572
		中国	8,154
		インド	1,942
		韓国	29,683

（前田　作成）

GDP 対前年伸び率(%、2015年4月値)

_	国名	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
Algeria	アルジェリア	3.3	2.8	4.1	2.6	3.9
Bahrain	バーレーン	3.4	5.3	4.7	2.7	2.4
Egypt	エジプト	2.2	2.1	2.2	4.0	4.3
Iran	イラン	▲ 6.6	▲ 1.9	3.0	0.6	1.3
Iraq	イラク	13.9	6.6	▲ 2.4	1.3	7.6
Israel	イスラエル	3.0	3.2	2.8	3.5	3.3
Jordan	ヨルダン	2.7	2.8	3.1	3.8	4.5
Kuwait	クウェイト	6.6	1.5	1.3	1.7	1.8
Lebanon	レバノン	2.8	2.5	2.0	2.5	2.5
Libya	リビア	104.5	▲ 13.6	▲ 24.0	4.6	17.7
Morocco	モロッコ	2.7	4.4	2.9	4.4	5.0
Oman	オマーン	5.8	4.7	2.9	4.6	3.1
Qatar	カタール	6.0	6.3	6.1	7.1	6.5
Saudi Arabia	サウジアラビア	5.4	2.7	3.6	3.0	2.7
Syria	シリア	na	na	na	na	Na
Tunisia	チュニジア	3.7	2.3	2.3	3.0	3.8
Turkey	トルコ	2.1	4.1	2.9	3.1	3.6
UAE	UAE	4.7	5.2	3.6	3.2	3.2
Yemen	イエメン	2.4	4.8	▲ 0.2	▲ 2.2	3.6
	(GCC6カ国平均)	5.3	4.3	3.7	3.7	3.3
	全世界	3.4	3.4	3.4	3.5	3.8
	EU	▲ 0.4	0.1	1.4	1.8	1.9
	ASEAN-5	6.1	5.2	4.6	5.2	5.3
	MENA	4.9	2.3	2.4	2.7	3.7
	日本	1.8	1.6	▲ 0.1	1.0	1.2
	米国	2.3	2.2	2.4	3.1	3.1
	ドイツ	0.6	0.2	1.6	1.6	1.7
	ロシア	3.4	1.3	0.6	▲ 3.8	▲ 1.1
	中国	7.8	7.8	7.4	6.8	6.3
	インド	5.1	6.9	7.2	7.5	7.5
	韓国	2.3	3.0	3.3	3.3	3.5